

森町議会全員協議会

令和6年10月21日（月曜日）

開会 午前10時40分

閉会 午前11時34分

（議会側の議題）

1. 政策提言書について
2. その他

○出席議員（13名）

議長 14番	木村俊広君	副議長 1番	伊藤昇君
2番	河野文彦君	3番	高橋邦雄君
4番	河野淳君	5番	山田誠君
6番	野口周治君	7番	斉藤優香君
8番	千葉圭一君	9番	佐々木修君
10番	加藤進君	12番	東隆一君
13番	松田兼宗君		

○欠席議員（1名）

11番 山本裕子君

○職務のため出席した者の職氏名

事務局 長	小田桐 克幸 君
次 長 兼	
議事係 長 兼	関 孝憲 君
庶務係 長	

○議長（木村俊広君） それでは、引き続き全員協議会を開会します。

ただいまの出席議員数は13名です。定足数に達しましたので、全員協議会を開会します。

これから本日の会議を開きます。

本日の議題は、お手元に配付のとおりであります。

それでは、議会側の議題に入ります。

1、政策提言書についてを議題とします。

お手元に配付のとおり、民生文教常任委員会から1項目について提出がありました。

佐々木民生文教常任委員長より説明をお願いします。

○9番（佐々木 修君） 民文のほうから政策提言を1題提案させていただきたいと、このような申出が委員からありましたので、委員会を開催して協議をした結果、政策提言に値するということの内容でありましたので、提案する次第ですが、詳しい内容につきましては提案者であります斉藤議員のほうから内容について詳しく説明させますので、よろしく協議いただきたいと、こう思っております。どうぞよろしくお願いします。

○7番（斉藤優香君） それでは、政策提言について説明させていただきます。

森高等学校のこれからについてということで、町としてこの先どうしていくかということを今ここできちっと考えていかなければならない時期に来ていると思いましたので、政策提言させていただこうと思っています。

町の支援体制として、人口減少とはいえ森高等学校の生徒数の減少は存続を脅かすものとなっております。道立高校とはいえ、森にあって当たり前の存在であったため、従来どおりの振興会に対しての補助金という形での応援でありました。存続のためにはより積極的な支援体制が必要と考えます。通学費の補助、給食の導入、全国からの受入れ態勢づくり（寮、下宿、交通費援助など）、地域の特性を生かした担い手育成につながる学習、活動ができる学校づくり、総合学科の特性を生かした専門性の高い授業の選択と資格取得、希望の進学の実現、外国との関係が増えることを考えた取組など、町の方針を定め、早急に取り組んでいくことを提案したいと思います。

現在森高校は、1年生18名、全校生徒73名となっております。この分で行くと5月には地域連携校となりまして、観光と地域連携を伴っていますけれども、20人を切って3年が続いたら閉校に進んでいくと考えますので、今町で必要であれば森高校の支援をしていくべきだと考えますので、皆さんどうぞご賛同をお願いします。

以上です。

○議長（木村俊広君） ただいま提出者から説明がございました。

支援してでもまず森高を存続させなければ駄目だという、そういう考え方で皆さんのほうの考えがまとまれば中身について検討していく必要があると思うのですけれども、まず今まで以上の支援をしてでも残さなければならぬかどうかというものについて皆さんの

ほうから意見を求めたいと思います。意見のある方。

○2番（河野文彦君） 私は、森高はぜひ存続してほしいというところで、今まで以上の支援、その支援することによって生徒がたくさん選んでもらえる、そういう学校になっていってもらえるのであれば支援は重要なと思います。

内容に行ってもいいですか、内容も。今支援が必要かどうかの発言……

○議長（木村俊広君） まず、必要だということで意見伺いました。

ほかの意見もあれば伺いたいと思います。

○3番（高橋邦雄君） 私も支援は必要だと。生徒数も年々減っている状況であります、森高校、町内に唯一の高校ということで、就職率も高いのですけれども、やっぱり学生の状況からは町内のいろんなところでアルバイトをしたりとか、いろんな子供たちも増えていますので、町の経済を担っているというわけでないのですけれども、そのように頑張っている森町にとっても還元できる生徒も年々増えてきているというお話も聞きますので、いろんな支援のやり方があると思うのですけれども、地域連携校ということは1桁台が二、三年続かない限りは配置計画には入らないという見方もあるのですけれども、やはりここで行政として、町として何ができるのか、では高校として何ができるのかということ話をすり合わせながら必要な支援というのは今後も必要になってくると思いますので、私は存続には力を入れていかなければならないと考えております。

以上です。

○4番（河野 淳君） 私も存続のほうには賛成です。一度なくしてしまうともう二度と戻らないという部分と、高橋議員言うとお子子供たち、夕方のレジ打ちとか、結構町のお店の存続に貢献しているところもありまして、例えばこれが函館市内とかに通学とかになるとほとんどそれがなくなってしまうということと、地元からいなくなってしまうのが早くなるということは若い人の町から離れていくのが加速するのではないかなと思っております。来年度から地域連携校ということなのですから、一応道教委のほうとしては町の取組がどこまでされているかというのも閉校するかどうかというものの重要な指標になっていますので、例えば町を挙げて取り組んでいるのだという姿勢を道教委のほうに示すことができれば閉校になるプロセスを遅らせたり、取りやめさせるということも可能だということと、結構ほかの自治体でも気づいたときにはもう閉校の手続取られているということもあるので、そこは率先して町として支援していくというのを北海道のほうにも示していく必要があると思います。

○6番（野口周治君） 論点の補充です。

私は、誰でも教育を受けたい人は受けられるようにするのが世の中の努めだと考えていて、森高がないのだったら無理して下宿してまで、あるいは長時間の通学をしてまで通わないという人が出るのであれば、やはり地元にそういうチャンスを残しておきたいと考えます。ほかの点についてはさきの皆さんと同じです。

以上です。

○８番（千葉圭一君） 私も森高等学校の存続に賛成です。今地域に必要な若い方の考えの、地域課題に対して若い世代の考え方でこの地域をどう盛り上げるのか、どう課題を解決していくかということも学校の中で学習、活動ができる学校づくりを目指していくことによって今後の森町づくりの基礎になるのではないかな、もしくは一つの基盤になるような、そういった学校づくりが必要なのではないかなというふうに考えています。森高に入りたくても交通手段がないとか、いろんな方が森町の中にはいらっしゃいます。そういう意味ではぜひこの森高等学校の存続をしていただきたいなというふうに考えております。

以上です。

○議長（木村俊広君） 今まで出た意見の中では予算的に少しかかって、それは維持していくべきだという、そういう意見だったと思います。それに対して反対の意見があれば伺いたいと思いますけれども、どうでしょう。

（「なし」の声多数あり）

○議長（木村俊広君） そしたら、議員皆さんでこれを強く推していくという、そういう形でまずよろしいですね。

（「異議なし」の声多数あり）

○議長（木村俊広君） そしたら、内容について、入っていきますか、内容まで。一気にいきますか。

齊藤議員のほうから何点か話ございました。４点ですか。これについてさらに肉づけが必要だとか、そういう意見があれば伺っていきたくと思いますけれども。

○２番（河野文彦君） まず、この提言書の前段の文章と４つの具体的な支援というような内容の文書になっているのですけれども、まずもうちょっと文章を見直したほうがいいかなと思うのです、言葉のつながりとか。その辺は委員会でもう少し見直すべきだと思います。

そして、４つの具体的な部分で、例えば通学費の補助とかですと通学しているその家庭が町にお願いしたりという形になると思うのですけれども、例えば給食の導入だとか、学習の内容、活動だとか、ましてや資格取得となると町だけ単独で動いてもどうしようもないと思うのです。こういう提言書が出てくるということは、もう森高校とは打合せをして、森高としてはこういう支援が欲しいというようなところまでいっていないとただの独り相撲だと思うのです。ですから、今の時点で森高とどういうお話しだとか、委員会としての調査等々を進めてこういうことになったのか、その辺をもうちょっと詳しく教えてもらえますか。要は一言で言うと町の独り相撲だけにはなっては駄目だと。森高がもちろんこういう支援が欲しいとか、こういうことをやっていきたい、そういう中で町が何を支援できるかだと思うので、その辺のお話というか、打合せがどういうふうに進んでいるのか、そこをお願いします。

○議長（木村俊広君） 事前に何かそういうものがあったのかということで、齊藤議員。

○７番（齊藤優香君） 特に森高等学校さんとはお話しはしていません。していないのです

けれども、ただどんな支援をしてほしいかということも大事だと思うのですけれども、森としてこういう学校を地元に残してほしいのだという意味で提案する、でないとも高校というのは校長先生は何年かに1遍でいなくなってしまって、道の考えている教育の基本はあると思うのですけれども、それで変わっていくようであってはならないと思うので、町としてはこういう支援をして、こういう学校をこの地元に残してほしいのだというのを示して、そこですり合わせていくという考え方もできるのではないかなと、初めから森高校が望むものだけではなく、町としてはこういう学校、こういう生徒を育てていきたいのだという、こういう教育をしてほしいのだというのをまずは示すのかなと思ったので、この提言をしました。

○議長（木村俊広君） 道教委のほうでは一般的なそういうことしか要望がないと思います。やっぱり町のほうからこういう学校にしたいという、そういう要望を上げていかないと一歩も多分動かないはずなので、それは町のほうから動いてアクションしてもらうような、そういう流れに持っていくと。そのために議会からも当然町のほうにそういうものが必要なのだよとやっぱり強くアピールしていく必要があると思うので、河野文彦議員言ったのは独り相撲になってしまうよ、になってしまう可能性があるよという話だったのだけれども、そうであればそれはそれで仕方ないことなのだけれども、まずは町のほうからぶつけていくという、そういうアプローチが大事かなと思うのですけれども、ちょっとここで暫時休憩します。

休憩 午前10時55分

再開 午前11時29分

○議長（木村俊広君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

休憩中の中でいろいろ皆さんの中で話をいたしました。そういう中でいろんな意見出てきたわけですが、真剣に高校をどうしたら残していけるのかという、そういう部分、斉藤議員、そして協議会の皆さんと事務局と少し文言整理しながら、そういう形で提出するという方向で進めたいと思います。よろしいですか。

（「異議なし」の声多数あり）

○13番（松田兼宗君） 最初の文章の中でこれまでの議会審議や所管事務調査等を踏まえて次のとおり提言するって書いているのだけれども、いつやりましたか、調査。委員会でやっているの。やっているわけではないでしょう。予算決算委員会の中で振興会についての補助金についての質疑さえそんなにないのだよ、今まで。なのにどこでやったのって。今日がその場なのかなと思っているのだけれども、ただ皆さんが言っている意見というのは正式な本当のことなのかどうかって分からないわけですよ、資料何もないから。だから、それを本来であればやるべきことなのではないの、議会として。そして、議会が森町の世論を高めるために何をしなければならないかといったら、一番いい方法ってマスコミを使

うことなのです。これだけ森の町の議会が森高校存続のために立ち上がったのだということを訴えないと、そのためには何も今日話し合ったことがすごく、これをきっかけにしてそれこそ特別委員会を立ち上げて今後一生懸命やっていくのだという方向に進まないと、ただ町に提言してそれでおしまいという話ではないだろうと私は思うのです。

○議長（木村俊広君） 分かりました。取りあえず今回はこれ提出します。そんな中で行ったり来たりまたする場面が出てくるのだけれども、そういう中でいろいろと皆さんと協議しながら、今後どうすべきかということもまた改めて今後の流れに肉づけしていくという形でやっていければなと思っております。また、マスコミ等も、まだ本格的なそういう流れになっていないので、もう少し流れができてからそういう話もリリースしていければなと思います。そういう形で提出させていただきますので、よろしくお願いいたします。提言書に関してはそういう形で進めさせていただきます。

暫時休憩します。

休憩 午前11時32分

再開 午前11時32分

○議長（木村俊広君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、2のその他に入ります。皆様から何かありますか。

○議会事務局長（小田桐克幸君） すみません。この件ではなかったのですが、その他ということで。

先ほど保育所工事の件について町側から説明があったのですが、その中で継続費、予算絡むものの補正を要する、または単項議決の件についても話がありました。当局のほうから日程的なものも来るとしますので、恐らく12月定例の以前にということかなというふうに思っていますけれども、分かり次第皆様のほうにお知らせしたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。

（「めどはありますか」の声あり）

○議会事務局長（小田桐克幸君） 恐らく11月の中、下旬にかけて、2回必要だと言われているので、かというふうに推察します。

○議長（木村俊広君） ほかにございますか。

（「なし」の声多数あり）

○議長（木村俊広君） なければ、以上をもちまして本日の議題の審議等は全て終わりました。

本日の全員協議会はこれで終了します。

お疲れさまです。

閉会 午前11時34分